

福島市が目指す『コンパクト+ネットワーク』のまちづくり

既存の人口・都市機能・基盤集積を生かした効率的な都市経営を進めるため、従来の拡大・拡散型の都市づくりを転換し、生活環境を重視した持続可能な集約型の市街地誘導・形成と中心部や地域生活拠点などが連携するコンパクト+ネットワークのまちづくりを目指す。

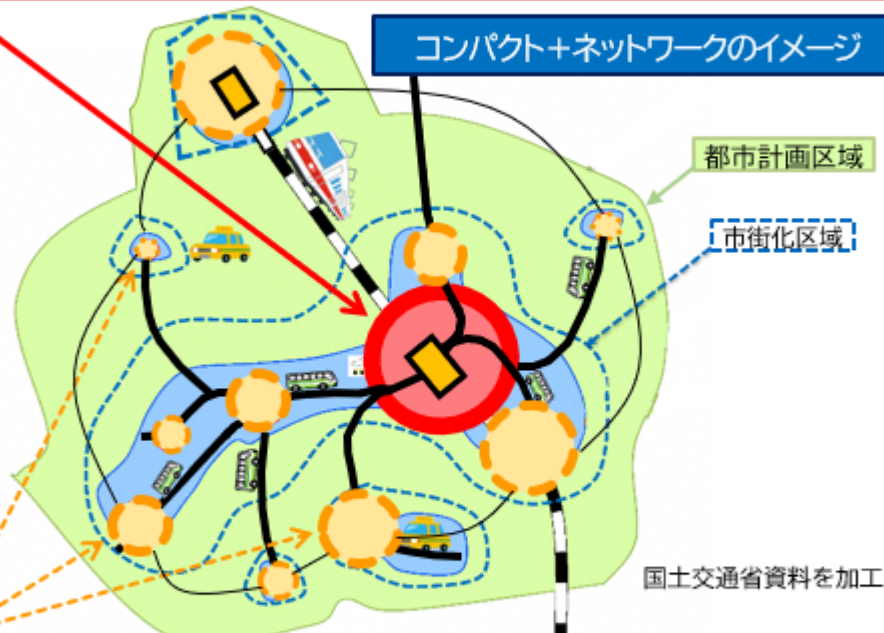
また、市街地内の生活環境の向上や各地域の市民生活を支える地域生活拠点の強化を図るとともに、周辺部における農業生産環境の整備、豊かな自然の保全、既存集落の維持・活性化を図り、市街地と周辺の自然・田園が調和した都市づくりを目指す。

【福島市都市マスタープラン(平成29年3月)】

中心拠点=広域的な拠点

市全体又は広域的に活用される高次都市機能を総合的に集積

行政、経済(業務、商業、コンベンション)、医療・福祉、大学・高校、文化、情報発信、まちなか居住等

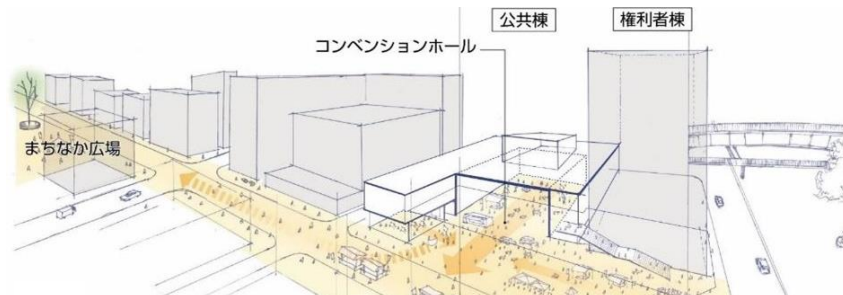


地域拠点

地域の特性に応じ、地域の市民生活を支える拠点、観光や工業、農業等の特定分野の拠点を形成

南矢野目地区(商業系拠点)、飯坂地区(観光、生活拠点)、大笹生地区(工業、交流・スポーツ拠点)、笹谷地区(居住系拠点)等

<東口再開発:コンベンションホール単独案のイメージ>



敷地面積 : 約14,000㎡
主要な用途: 住宅、商業、オフィス、駐車場・駐輪場、市施設
※県内外からの集客

(第2回 福島駅周辺まちづくり検討会資料より)

<南矢野目市有地の提案内容>



敷地面積 : 約28,500㎡
主要な用途: 市場、書籍・カフェ、イベント広場、子ども図書館など
※車で10分の商圈(5km)を想定

(イオンタウン(株)資料より)